

## 郷土愛を育むことの重要性について



4〜6月期のGDPで、日本が中国に抜かれ、世界3位に後退したことが明らかになりました。今の中国はかつての日本のようなガムシヤラな発展ではなく、都市の景観をトータルで考えるセンスと余裕をもった成熟度の高い成長を成し遂げつつあります。私は先日中国訪問で中国の破竹の勢いを肌で感じ、日本も真剣に危機感を持つべき時期が到来したと思っています。格差社会であることを問題視しない中国では、小学校であっても不合格ならば留年、優秀な児童は飛び級も可能。海外留学も積極的に奨励され、各国の最先端技術を国に持ち帰らせて優秀な人材の厚い層を作っています。対して日本は、格差や詰め込み式教育、順位付けによるいじめ問題への配慮が行き過ぎ、現在教育改革による是正を行っています。その方針に子ども達の基本的な人間力を培い、自分達のルーツを理解させるという観点が不足しているようです。

資源もなく、国土も狭く、人口も少ない日本が国際競争に勝ち抜くためには優秀な人材の育成と困り込みが最重要課題であり、限られた時間割の中でも優先順位を吟味しつつ教育計画を進めるべきです。ただでさえ足りない授業時間数に無理に英語教育を詰め込む自治体も増えていますが、まずは最も身近な郷土のことを理解し、確固たるバックグラウンドに根ざした自信と落ち着きを持つことこそ国際人への第一歩。そのベースができる前から外国語教育が先行すれば、英語が堪能で郷土愛が薄い子どもを増やし、優秀な人材の国外流出を招きます。

## 月刊 脊 振

福岡県議会議員  
(南区選出)  
**ひぐち明**  
県政活動報告誌



郷土愛を高める教育については、「食育」として多くの県で地場産物や郷土料理を学校給食に採り入れる試みが進められています。学校給食用郷土料理メニューのコンテストや給食の郷土料理レシピを公開するなど、各自治体で様々なアイデアが実行され、佐賀県の給食の食器を有田焼にするという試みも話題になりました。福岡でももちろん、がめ煮など数種の郷土料理が給食で供されていますが、子ども達の心と体を作る根幹である「食」についてのことから、せめて月に一度以上は郷土料理を献立に採り入れたい、その料理の由来などを教えたりするような一層の努力が必要だと思えます。

## 故郷への誇りは、自分への誇りに通じる

また、伝統文化にふれさせることで郷土愛を高めることも重要です。神戸まつりや金沢百万石まつり、長崎くんちなど、子ども達を祭りに参加させるために休校などの配慮をする例もありますが、福岡にも、山笠やどんたくなど世界に誇るべき素晴らしい祭りの文化や博多織などの伝統工芸品があります。できる限り多くの子ども達に伝統文化の精神を伝える努力が必要でしょう。

自分の生まれ育った場所を愛する気持ちは、愛国心につながります。そして、その気持ちは、世の中のために自分を働かせるという意識を芽生えさせることや、自分自身を大切に夢や希望をもって生きていくことにつながっていくものです。こういう気持ちは持った日本人を増やしていくことが、これからの激動の世界で日本が生き残っていくための重要な要素だと考えます。

アジアの窓口を自認し、最も活気がある地方都市と言われる福岡は、長い歴史が培ってきた伝統文化を受け継ぎながら、常に新しい風を受け入れる風土を持っています。この魅力を子ども達にしっかりと伝え、堂々たる福岡っ子を育てていくにはありませんか。

## 南区トピックス

残暑厳しいこの頃、子どもたちの遊び場に頭を悩ませる方も多いでしょう。南区では、大橋に加え、今年にはひばるにも子どもプラザがオープンして人気を博しています。是非ご活用下さい。